

沖野から版

創刊号

平成25年3月1日発行

◆震災、伝えたい思い◆

80代 女性

6.12(1978.宮城県沖地震)より、持出し袋に4~5日分の食料を用意してあったので、避難所に行かずに過ごした。特に困ったことはなかった。一度も店に並ぶこともなかった。

80代 女性

避難所のトイレの往復に人の手を借りた。家が壊れ、1年間マンション住まいだったが、以前からのヘルパーさんが来てくれ、心強かった

80代 女性

常に婦人防火クラブで話し合い、準備していたので分けてあげることができた。

80代 女性

近くに親戚がいたので、食事を運んでもらえた。

70代 女性

安心できる住居に直した。
お隣りと良いつきあいをしているので心強い。

中学2年生

お年寄りをお父さんが車で送ってあげた。

R.T (当時 小学2年生)

同じアパートの人があたたかいお味噌汁とおにぎりをごちそうしてくれた。

A.K (当時 中学3年生)

沖野中学校に避難してきた人達のために働いた。

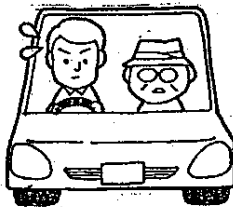
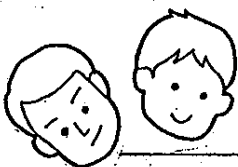
東日本大震災から約二年が経とうとしています。風化させないためにいろいろな形で、震災の記録集が発行されています。

この度、私達OKBも微力ではありますが、地域防災力強化を目的に、**おきのから版**を発行いたしました。

地元の幅広い年齢層の方々から「困った事・不便だった事・情けなかった事・怒った事」と「その教訓を活かして行なっている事・気をつけている事・準備している事」というテーマでお話を聞かせて頂きました。

一人でも多くの方に読んで欲しいとの思いで、●見易く●分かり易く●すぐに役立つ**から版**を作りました。

知って得する情報が満載です。どうぞご覧ください。



未曾有の震災を経験した私達ですが、かけがえのない絆を感じることもできました。皆さんの体験を伺い、ご近所同士の助け合いはとても大切だと痛感しました。沖野の皆さんが顔見知りになれるように、挨拶を心がけましょう！